

令和2年度施策評価 総括表

第5次総合計画 前期基本計画 : 平成28年度～令和2年度

基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

施策コード/施策名	実感指標 客観指標	H27 当初値	R1 実績値 R2 実績値	R2 目標値	施策実現への 取り組み	施策実現への 進捗状況	施策における総括		
							前年度までの課題	今年度の取り組み(成果、効果)	次年度以降に改善すべき課題
1-1-1 誰もが参加・交流できる 地域活動の支援	地域行事に参加している町民の割合(%) ①公民館主催の生涯学習活動への参加人数(人/年)	35.2 ①30,370	30.4 ①4,669	➔ ①34,000	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	③進んではいるが、スピードが遅い。	生涯学習活動については、新型コロナウイルス感染対策が必要となるため、従来の事業の見直しや新しい事業への取り組みが必要である。公民館や集会所については、コミュニティ施設としての機能を十分に果たせるよう維持管理を支援していく。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定例区長会は文書配布のみとし、随時FAXにより通知を行った。また、全戸配布については委託に切り替えた。各種研修等については、情報提供は行ったが、コロナ禍でWeb配信や書面開催となった。公民館の維持管理のために補助事業を実施し、手指用アルコールや手洗い用石鹸など感染防止対策物品の提供も行った。	新型コロナウイルス感染症の影響により、自治会活動の多くが実施できない状況が続いている。全戸配布業務は業者委託に切り替えたため、今後、住民からの問い合わせに早急に対応する体制を構築する必要がある。また、感染症が終息するまでは分館活動を自粛せざるを得ない状況であり、地域活動の希薄化が懸念されるが、引き続き、感染症対策物品の配布や情報提供といった支援を行う。
1-1-2 人と地域が輝くまちづくり 活動の推進	まちづくり参加したいと思う町民の割合(%) ①まちづくり活動相談件数(件/年) ②まちづくり活動団体支援数(団体)	28.9 ①— ②7	38.9 ①0 ②4	➔ ①40 ②15	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	③進んではいるが、スピードが遅い。	まちづくり活動団体同士の更なる交流や新たな助成金制度によって、今までとは違った活動を展開できるよう進めていく必要がある。	コロナ禍で各研修会等が中止となり、団体活動が思うように実施出来なかった。まちづくり活動支援事業に関しては、助成金の交付団体に対して資金調達や事業の目標達成に向けた意識付けを行い、団体の自主性及び自立性を高めた。また、ボランティアのマッチングを受け付けることができず、まちづくり活動相談件数は0件となっているが、まちづくり活動支援登録団体に対して取材やヒアリングを行い、団体が抱えている課題を共有し、積極的に相談支援を行った。	コロナ禍でボランティアやまちづくり活動の制限が続いており、活動の継続や存続が難しくなりつつある。他地域での事例を参考にコロナ禍でもできる活動の方法を模索し、助言を行う。また、アフターコロナに向けた取組を考え、活動の活性化につなげる。
1-2-1 災害に強い地域社会 の実現	災害用備品を準備している町民の割合(%) ①自主防災組織設置率(%) ②避難行動要支援者のうち、地域支援者が決定している人の割合(%)	18.1 ①45.8 ②5.0	27.6 ①95.8 ②4.1	➔ ①100 ②100	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	②計画どおり順調に進んでいる。	消防団の訓練をさらに充実強化し、団員の消防技術の向上に努める。全ての行政区での自主防災組織の設立を支援するとともに、粕屋町民全体の防災意識の向上を図る。	消防団の訓練をさらに充実強化し、団員の消防技術の向上に努めるとともに、消防設備の更新を行った。新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、2つの行政区で防災講座を実施し、住民の防災意識の向上に努めた。	災害発生時の頻度はさらに増えることが予想されるため、自主防災組織を中心とした住民意識向上のための啓発活動の継続と、防災設備・体制の充実及び要支援者の個別避難計画の策定を進める必要がある。
1-2-2 事故や犯罪が起こりにくい 地域社会の実現	事故や犯罪が少なく安全な町だと思ふ町民の割合(%) ①交通事故発生件数(件/年) ②犯罪発生件数(件/年)	40.2 ①494 ②871	43.3 ①345 ②379	➔ ①0~450 ②0~700	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	②計画どおり順調に進んでいる。	住民が事件や事故の被害に遭うことがないよう、関係機関との連携の更なる強化と、町全体での取組を推進し発生件数を抑制する。また、複雑・多様化する消費者被害の防止や被害拡大防止のため、今後も継続して啓発活動を行う。	新たな見守りシステムの整備を行うとともに、広報やHPなど様々な手段を活用し、事件・事故の被害防止のための周知活動を行った結果、事故発生件数や犯罪発生件数が昨年度より減少した。	交通事故の件数は減っているが、事故による死者数は増加し、飲酒運転も発生しているため、それらの問題への対策が必要である。また、犯罪防止のため、防犯灯の増設・LED化を促進し、消費者問題に関しては、身近な相談窓口の周知を行う必要がある。
1-3-1 子どもたちの生きる力を 育む教育の推進	教育環境が整っていると思う町民の割合(%) ①全国学力・学習状況調査における国の平均正答率以上の教科の割合(%) ②全国体力・運動能力、運動習慣等調査における国の平均値以上の種目の割合(%)	30.0 ①75.0 ②50.0	39.3 ①— ②—	➔ ①87.5 ②75.0	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	③進んではいるが、スピードが遅い。	新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止策を実施しながら、教育施策を慎重に実施する必要がある。また、未来を担う子どもたちがSociety5.0時代に適応するため学校の情報機器端末やICT環境の整備が急がれる。	クラス数の増加に伴う備品の購入や教室の改造を実施し、児童生徒の安全・安心な学習環境の整備を進めた。GIGAスクール構想による全生徒教職員分のタブレット、全クラス分の電子黒板・書画カメラの配置を行った。	引き続き、安心・安全で快適な学習環境のために、建物の増築や老朽化対策を行い、必要な備品や人材を確保することが課題である。新型コロナウイルス感染症の影響による児童・生徒の就学環境の変化に対して、必要な支援を行う必要がある。

令和2年度施策評価 総括表

第5次総合計画 前期基本計画 : 平成28年度～令和2年度

基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

施策コード/施策名	実感指標 客観指標	H27 当初値	R1 実績値 R2 実績値	R2 目標値	施策実現への 取り組み	施策実現への 進捗状況	施策における総括		
							前年度までの課題	今年度の取り組み(成果、効果)	次年度以降に改善すべき課題
1-3-2 地域ぐるみで育む 子どもたちの健全な育成	青少年の育成について 学校・家庭・地域の連携 が十分だと思う人の割合(%) ①家庭教育学級参加 者数(人/年) ②成人式参加率(%)	23.2	28.1	↗	②取り組まれ ているが、まだ 改善の余地が ある。	③進んではい るが、スピード が遅い。	家庭教育を充実させるために、PTA活動や家庭 教育学級を支援し、参加者数の増加を図る。ま た、小学校及び地域公民館での寺子屋事業の 周知と支援を行う。 町が成人式を開催することにより、未来を担う青 年たちの大人の仲間入りを祝うとともに、大人と しての自覚を持たせ、自分の行動に責任を持た なければならないということを認識させる。また、 旧友との交流を深め、心豊かな郷土を愛する大 人になってもらう。	コロナ禍により、家庭教育活動やPTA活動など で、多くの事業実施を見合わせる事となった。 町内巡回や立入調査を実施するなど、町民や警 察と連携・協力しながら青少年健全育成に努め た。成人式事業では、実行委員会と協力し、ビデ オレターや思い出の映像を作成するなど、これ までとは異なる成人式を開催できた。	青少年健全育成の担い手が不足している中、コ ロナ禍の影響により、各種研修会の中止や町内 巡回の縮小も生じており、青少年を見守る機会 の減少が懸念される。引き続き、ウィズコロナ、 アフターコロナも視野に感染防止対策を徹底し ながら、PTA活動や家庭教育学級を支援し、地 域学校協働活動や成人式事業を実施する。
1-4-1 ライフステージに応じた 学びと交流の推進	身近に学びの機会が あると思う町民の割 合(%) ①粕屋町立図書館の来 館者数(人/年) ②粕屋町立生涯学習セ ンターの利用者数(人/ 年) ③粕屋町総合体育館の 利用者数(人/年)	29.3	36.4	↗	②取り組まれ ているが、まだ 改善の余地が ある。	②計画どおり 順調に進んで いる。	各施設の事業については、新型コロナウイルス 感染症対策により利用人数の規制を設けなけ ればならないため、従来の事業だけではなく、感染 対策により活動縮小を余儀なくされている団体 等と連携した自主事業が求められる。また、町 の文化芸術を衰退させないため、各団体の活動 発表の周知化など、サークル活動への加入促進 に向けた情報発信も新たに創出する。	各施設の事業については、コロナ禍による緊急 事態宣言等で臨時休館や利用制限を行ったた め、計画していたイベントや講座等が中止とな り、利用者は減少した。社会教育の推進のた め、広報活動、代替事業の実施や施設設備の 更新を行った。	新型コロナウイルス感染症対策のためイベント 等の中止や施設の利用制限を行ったことによ り、町民の学習機会の減少が懸念される。感染 症対策に取り組みながら、実行可能な事業を進 め、町民の学習意欲の向上に努める。また、安 全で安心できる施設の運営のため、粕屋町公共 施設等個別施設計画に基づき、施設の長寿命 化を行う。
1-4-2 郷土を愛し、地域の歴史と 文化を継承する社会の実 現	郷土の歴史に興味を 持っている町民の割 合(%) ①歴史資料館の来館 者数(人/年)	35.2	35.4	↗	①着実に取り 組まれており 評価できる。	②計画どおり 順調に進んで いる。	粕屋町で初となる国指定史跡が誕生したこと で、町の財産として活用を図るべく様々な企画 や情報発信を駆使し、周知に努める。また、新型 コロナウイルス感染症対策を念頭に置きつつ、 魅力ある企画を創出していく。近年、町内の開発 が急増し、それに伴う発掘調査件数も増加して いるが、相互の事業に支障をきたさぬように協 議調整を行う。	新型コロナウイルス感染症対策のため、ワー クショップの中止や歴史資料館の利用制限を行 った。町民文化祭の代替事業として作品展を歴史 資料館展示室で行った。歴史の理解が深められ る、小・中学生のための粕屋町の歴史[令和版] を刊行した。開発等における緊急発掘調査に ついては、計画通りに4件の埋蔵文化財調査を行 うことができた。	新型コロナウイルス感染症対策のため、歴史資 料館において歴史学習の場を提供できないが、 サンレイクかすやを会場として講座やシンポジ ウムを実施し、地域の歴史への意識高揚を図る。 阿恵官衙遺跡の保存活用計画を策定し、史跡 地の公有化を行う。開発件数の増加に伴う発掘 調査の件数の増加に対応するため、調査体制 の改善が必要である。